

	コード	名 称	区分	コード	名 称		
事業名	706	街なみ環境整備事業(整備事業)	会計	01	一般会計		
			款	08	土木費		
			項	04	都市計画費		
基本 施策	27	秩序の中にもにぎわいのある都市空間をつくる	目	02	市街地整備推進費		
			細目	371	市街地整備推進事業		
行革大綱の重点事項番号			1.4.6		細々目	52 街なみ環境整備事業	
担当部課	コード	310100		担当者 氏 名	内田 充紀	連絡先	22 - 9825
	名 称	中心市街地活性化推進室					(内線) 2826

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)		中心市街地区域内		※対象件数	
成果(どうする)		居住人口増と観光客の誘致により、中心市街地の賑わいを創出する。			
根拠法令・要綱等		街なみ環境整備事業制度要綱			
開始年度	平成 13 年度	関連事業	市街地再開発事業、中心市街地活性化のための各種推進事業		
終了年度	平成 29 年度				
H21 事業 内容	市道農人町八幡町線道路美装化工事				
	市道中町新長田橋線設計業務				
	市道三之町線測量業務				
	(仮称)紺屋町広場実施設計業務				
	(仮称)紺屋町広場測量業務				
	旧ふたば幼稚園アスベスト調査				
社会情勢 の変化等		平成21年度より道路美装化工事を実施し、目に見えた形で整備が進んでおり、事業への関心も高まっている。 また、広場整備の設計業務において市民参加型のワークショップを実施している。			

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	うえのまち地区233ha (上野中町ほか33町)
2 建設面積 (延床面積)	道路美装化 26,905㎡ 広場整備 4ヶ所 4,840㎡
3 規模・構造	
4 総事業費	1,651,576 千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
			目標	目標		
			実績	実績		
		回	目標	目標		
			実績	実績		
		件	目標	目標		
			実績	実績		

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
	一日あたりの通行量	中心市街地の回遊性を高める事業として位置づけられている。	人	目標 4262 実績 3989	目標 4956 実績 2462	3817	4043
				目標 実績	目標 実績		

		H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求
直接事業費計 (A)		(千円) 6,902	(千円) 84,726	(千円) 223,780	(千円) 324,062
投入コスト Aの財源内訳	国庫支出金	3,447	42,257	114,280	165,139
	県支出金				
	地方債		40,100	109,500	150,700
	その他	0	0	0	0
	一般財源	3,455	2,369	0	8,223
事業投入人件費 (B)		2.0人 14,400	2.0人 14,400	2.0人 14,400	2.0人 14,400
フルコスト(A)+(B)		21,302	99,126	238,180	338,462

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)			備考欄(特記事項)
必要 性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業		市街地の回遊性を高める道路美装化事業並びにポケットパーク整備は中活基本計画における主要事業に位置付けられていることから活性化のための必要性は高い。 また、住民が城下町伊賀上野に対する誇りと愛着をもち続けてもらえるためには、歴史的な武家屋敷を活用した地域交流センターの必要性は高い。
	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第3者にも利益が及ぶ事業		
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業		
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業		
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
有効 性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		道路美装化により歩きやすい道路を整備すれば回遊性の向上は図れる。
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	○	
	城下町の歴史的な街なみを保全することは中心市街地活性化にとって重要な要件であり、道路美装化事業は必要な事業である。		
	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	○	
達成 度	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	○	
	市の重点施策である中心市街地活性化事業の基盤事業であることから、休廃止は理解を得られない。		
効 率 性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○	
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○	
サービス水準や対象を見直す余地がある。			
達成 度	当初設定した計画を	100%	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無	無	
効 率 性	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】		
効 率 性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。		市街地の道路については老朽化が著しいため、舗装や側溝の改修は必要であったが、当事業により実施できる為、効率性は高い。 また、水道の老朽管更新と時期を調整し、舗装復旧等について無駄のないように行っている。
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。		
	【事業名】		
	受益者負担を求めることができる事業である。		
達成 度	全体コストにおける負担構成は適正である。	○	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	本格的な事業開始にともない、建設部全体で事業展開ができるよう実施体制を整え、調整を行っていく。
昨年度 の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる
	【詳細】 道路美装化については道路河川課に事務委任を行い、広場整備については整備後の維持管理も踏まえ都市計画課にもワークショップへの参加を要請した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	東 弘久
事業の方向性	【方向性】 拡大・充実
	【理由】 中心市街地活性化基本計画の認定期間が残り3年となっているなかで、歩くまちの実現に向けて事業展開のスピードを上げていく必要がある。 駅前再開発事業だけでなく、城下町伊賀上野の景観保全、街なみ整備も市街地活性化のために必要であることから、当事業による整備を進めていく。 また、密集市街地における生活環境改善のため広場等の整備も急務であることから、住民との協働による広場等の整備を行っていく。
現時点における課題、その他	広場及びポケットパークの用地確保ができていないため、事業展開が図れていない。 また、地域交流センターの具体的な整備内容も整理する必要がある、整備後の運営や維持管理についても詰めていく必要がある。
課題、その他に対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	本年度中に地権者の意向確認を行うとともに、地域における広場等の必要性について調整を行う。 また、地域交流センターの基本方針などについて住民参加型のワークショップで検討を行いたい。